

2017/03/14 更生園 古川

ご指摘頂いたさつき寮の休日の過ごし方の実態、改善策、今後を中心に日中活動、意思決定支援等についてご報告いたします。

1 強度行動障害 男性棟（さつき寮）余暇・作業について

（1） 休日の過ごし方

ア 実態（休日～土曜日，日曜日等の休業日）

① さつき寮の状況（利用者 7 名，短期入所 2 名）

- ・ 戸外活動～園内，中庭散歩（0～1 回/1W）
- ・ 買 い 物～コンビニでおやつ購入（1 回/M）
- ・ 食 事 会～食事会（1 回/M）
- ・ 外 出～散髪，外出等（0～1 回/M）

＊ 強度行動障害棟のため，自傷や他害が常にある方などの配慮の他に，他班では対応困難な全盲，歩行が困難で移動は車椅子利用など，常時複数名での支援体制が必要なユニット。

イ 改善策

① 外出機会を増やし「さつき寮」の休日の過ごし方を見直し充実を図る。

a) 方法

- ・ ご本人，保護者等への説明と同意を得た上で 2 月から休日プログラムを見直し，取り組みを開始。

b) 2 月実績

- ・ さつき寮のコンビニ外出を月 1 回から週 1 回に増やして実施。
- ・ 週 1～2 回散歩で運動する機会を増やしました。
- ・ 月 1 回の食事会や散髪等は継続しています。
- ・ 近隣法人バザーへの外出など，地域行事への参加も始めました。

c) 今後の予定

- ・ 月 2 回ある会議日の午後を利用して，3 月から昼食外出を始め，近隣のファミリーレストラン等で食事やデザートを食べる機会を設定し状況に応じて継続していきます。

d) 人手の確保

- ・ 休日にこれまでより 1 名多く支援員を配置して対応しています。
- ・ 会議日で人手の多い日に外出を取り入れる。
- ・ 袖ヶ浦市社会福祉協議会スタッフと市内のボランティア，NPO 等で移動支援の援助を受けられる方法が無いか検討した。ボランティアは人手不足のためすぐには対応出来ない。また NPO で移動支援をしている事業所が市内にあるが会員制で対応している法人が一箇所ある。

ウ 今後の休日の過ごし方について

- ① ご指摘頂いた寮余暇の充実については，その内容について検討の余地はあると思われますが，外出機会を増やし経験を重ね，充実を図って行きたいと考えます。

- ② さつき寮は個別に配慮が必要な方が小集団で生活をしている状況で、施設入所支援では他のサービスを組み合わせて展開することは難しい状況にあります。
- 地域で生活するにしろ施設で生活するにしろ、手厚い支援を必要とする方が集まり過ぎている状況では一人ひとりに個別で細かなケアが難しい状況があり、利用者の移行に合わせてより少人数の集団（半数程度）での生活に変えて対応していく必要があると考えます。

（２）日中活動

- ア 個別プログラムの設定による課題活動による行動改善をメインに取り組んで来ました。
- イ 課題活動は、これまで他の事業所等で作業活動になじめず主体的に取り組む事が出来なかった方達にとってパッキング、分類、組み立てなどで構造化の配慮がされ、一人ひとりに合わせた内容であることから活動として取り組む事が出来ました。
- ウ 利用者の方の多くは、自閉症スペクトラム障害特有の社会性、コミュニケーションに障害があることにより誤学習の結果激しい行動が続いていた方ばかりでした。事業開始当初、新たな活動として課題活動を導入しやること出来ることを増やすことで現在は活動のベースが出来てきていることから大人の当たり前の生活として作業（仕事）を導入し他の仕事以外の活動と併せて充実を図っていく予定です。
- エ 社会的相互交渉等の適切な人とのやりとりを学ぶ機会として学習機会は継続して必要と考えます。
- オ 年末から検討を開始していたリサイクル（解体）の仕事を２月から開始しました。
- カ 現在、作業内容として、園芸作業等について検討している。
- キ 強度行動障害支援事業利用者の作業棟を次年度移転し職住分離を明確化していきます。

２ 自己決定と意思決定支援について

- * 現在、居住場所等については、継続利用の方が多いため日々の過ごし方は理解されている方が多く、日々の活動の参加の選択や、入浴の有無について選択をされる方、選挙に参加される方もいます。提供するサービスは、事業所側で個別に合わせ配慮し実施されていますが、まだ十分では無いのが実情です。

活動内容等選択等については特に強度行動障害の事業利用の方については選択出来る内容が非常に少ないため、活動内容を増やす必要があります。また、生活の部分でも地域での生活を視野に検討していく必要があると考えます。

日常生活の要求や要望については、日々の暮らしの中で応答する中で支援に活かして行くことが必要ですし、次年度から本人部会として利用者のミーティングの機会を設定し利用者の方から意見を伺っていく取り組みを開始していきます。

自己決定・意思決定支援については、職員の認識や理解を向上していく必要があり、特に日々の支援の組み立てを主導する役職の研修を実施し、気付きや支援のバリエーションの多様さの理解を深め支援に活かして行く必要があると考えます。